

稲・大豆作情報 (NO. 2)

1. 水稻作況情報田の生育概況 (7月11日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況			概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	主稈 出葉数	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 17.7株/㎡ (平年6/16,18.1)	本 年	46.3	209	7.6	7月2半旬は、気温はやや高く(+0.6℃)、多雨(359%)、寡照(54%)で経過している。 ◇平年と比べ、 草丈:「夢しずく」「さがびより」「ヒヨクモチ」共に高い。 茎数:「夢しずく」「ヒヨクモチ」は平年並、「さがびより」は少ない。 主稈出葉数:「夢しずく」「さがびより」はやや進んでいる。 *「ヒヨクモチ」も移植時期から見るとやや進んでいる。
		平 年	36.5	200	7.4	
		平年比	(127)	(104)	(0.2)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 18.6株/㎡ (平年6/19,17.2)	本 年	39.3	148	8.0	
		平 年	33.4	176	7.4	
		平年比	(118)	(84)	(0.6)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	7/2 18.8株/㎡ (平年6/27,18.8)	本 年	25.8	74	5.1	
		平 年	22.8	81	5.7	
		平年比	(113)	(91)	(-0.6)	

注1) 各品種 前作: 麦 注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる

注2) 平年値は、過去10年間(H25~R4)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH24~R4年の平均値)

◆農業試験研究センター米づくり情報2号 7月10日(抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 c m	茎 数 本/㎡	葉 齢 L	葉 色 SPAD	概 況 (平年と比較して)
6月20日	ヒノヒカリ	本 年 平 年 平年比(差)	29.8 29.9 100	204 277 74	6.8 7.7 -0.9	35.8 37.5 -1.7	
		さがびより	本 年 平 年 平年比(差)	30.5 31.5 97	164 200 82	7.5 7.5 ±0	37.2 38.6 -1.4
6月20日	ヒヨクモチ	本 年 平 年 平年比(差)	29.2 28.5 102	254 289 88	8.3 7.7 +0.6	40.0 39.2 +0.8	
		留意	○ 根の健全化のため、一旦落水し、土壌へ酸素を供給する。 ○ 落水後は浅水管理とし、茎数確保に努める。 ○ ヒノヒカリ、ヒヨクモチ等の追肥の必要な品種では、時期を逸しないように注意する。				

注1) 耕起概要等は前号参照。

2. 水稲管理

寡照条件が続いており、軟弱徒長傾向で推移している。また、大雨による湛水長期化で、土壌の酸素不足、スクミリングガイの食害が発生し、分けつの発生が抑制されている圃場が多い。

今後、気温の上昇とともにガス湧きが促進し、土壌の還元化が急速に進むことで更なる生育抑制が懸念されるため、適正な水管理で生育回復に努める。

○水管理 ～ 稲体の健全化を図る ～

- ・ 除草剤施用後の湛水期間を過ぎた圃場は、速やかに間断かん水に移行し、土壌に酸素を供給、稲体の健全化を図る。
- ・ 浸冠水した圃場は、速やかに新しい水と入れ替えたのち、いったん落水して土中に酸素を供給し、発根を促し、分けつの発生を促進する。
- ・ ガス湧きが確認されている圃場は、1～2日落水→数日浅水管理→1～2日落水を繰り返す、土壌の急激な還元化を抑制する（目安としては、落水後、田面に軽くひび割れがみられるようになったら入水）。特に水面に油膜が見られる場合は早急に落水する。
- ・ 冠浸水等で水稲が軟弱になった圃場では、スクミリングガイの被害を受けやすくなる。天候回復後は、浅水管理で貝の活動の抑制に努め、必要があれば薬剤散布を実施する。
- ・ 余り苗は、いもち病やウンカの温床になるため、直ちに除去する。

(早植え水稲)

- ・ 有効茎が確保できている圃場では、中干しを開始する（目安は右表を参考）。
中干しは、軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度とする。

品種	目標 穂数 本/㎡	有効茎数(中干し時期)	
		50株/坪 (15.2本/㎡)	60株/坪 (18.2本/㎡)
夢しずく	360	24本/株	20本/株

※砂壌土における強い中干しは、漏水の原因となるため、土壌表層に小さい亀裂が入る程度とし、黒乾状態を保つ。

○雑草防除 ～除草剤散布が遅れた圃場や田面が露出した圃場などは、雑草の発生に注意を～

- ・ 雑草の生育（葉齢）に注意し、中後期除草剤による早めの対策を講じる。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー I 粒剤	移植後 7日～ピエ4L 但し、収穫 30日前まで	湛水散布（3～4日は湛水）
	クリンチャー EW	移植後 20日～ピエ6L 但し、収穫 30日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン I 粒剤	移植後 15日～ピエ4L 但し、収穫 45日前まで	湛水散布（3～4日は湛水）
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15日～55日 但し収穫60日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低3日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後 15日～55日 但し収穫50日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15 日～ピエ 5L 但し収穫 50 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。(展着剤無加用)
	ハイカット I 粒剤	移植後 15 日～ピエ 3.5L 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布 (3～4 日は湛水)
	フォローアップ I 粒剤	移植後 15 日～ピエ 5L (稲 4 葉期以降) 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布 (3～5 日は湛水)
	ワイドアタック SC	移植後 20 日～ピエ 6L (稲 5 葉期以降) 但し、収穫 30 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。(展着剤無加用)

○中間追肥 ～ヒノヒカリ、ヒヨクモチ～

・元肥を即効性の肥料 (BB480 等) を使用した場合は次の通り。

「ヒノヒカリ」: 7/5～10 頃、窒素成分で 2.0 kg/10a (BB480: 15kg/10a) 程度

「ヒヨクモチ」: 7/15 頃、窒素成分で 1.6～2.1 kg/10a (BB480: 12～15kg/10a) 程度

○病害虫情報 (発生および防除)

・嬉野市の予察灯において、6/30、7/1・3・4 に、トビイロウンカの誘殺が確認されている。

また、同期間にはセジロウンカの誘殺数も多くなっている。飛来量は別表のとおり。

・今後それぞれの地区・品種別に発生状況を確認し、防除時期の判断・適期防除に努める。

(夢しずく情報田でセジロウンカを確認している)

・トビイロウンカの発生予測図については、梅雨明けをめどに情報発信される予定である。

・最新情報は、農業技術防除センターのホームページで。

[佐賀県 農業技術防除センター](#)

海外飛来性害虫情報第5号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況) (2023年7月6日更新)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ								
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県			長崎県					
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市	
ネット	ライト	ライト	ネット	ネット	ネット	ライト	ライト	ライト	ネット	ネット	フェロモン	フェロモン	粘着トラ	粘着トラ	粘着トラ	粘着トラ	フェロモン	フェロモン		
トラップ	トラップ	トラップ	トラップA	トラップB	トラップ	トラップ	トラップ	トラップA	トラップB	トラップA	トラップB	トラップA	トラップB	トラップA	トラップB	トラップA	トラップB	トラップA	トラップB	
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	23日	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	30日	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	1日	0	12	0	0	0	0	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	15	0	0	0	0	0	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	4	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

3. 大豆管理

**収量を確保するためには「適期播種」と「発芽・苗立ちの確保」が重要である。
排水対策を徹底し、耕起可能な状態になれば直ちに播種を行う。**

梅雨後半に入っており、断続した降雨が続いているが、梅雨明け後は、一転、高温・多日照となり、土壤の乾燥が急激に進む。梅雨明け後の播種遅れは発芽不良や遅延につながり、収量低下に直結する。

今後、気象予報をみながら、圃場が耕起可能な状態になれば直ちに播種できるよう準備を行っておく。

○圃場準備 ～ 耕起は水分の低い時に。大雨・長雨予報の時は無理しない～

- ・大豆は、石灰の吸収量が多く、根粒菌の活動促進のため、石灰を必ず施用する(pH6～6.5)。
- ・播種後2日間の大雨や浸水で、発芽率が著しく低下(酸素不足による窒息)するため、播種後2～3日以内に冠水するような大雨が予想される場合は無理して播種しない。
- ・荒起こしは、圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。
(耕起してから晴天が続く場合は乾燥しやすい)
- ・天候が変わりやすい場合には、無理に荒起こしはせず、1工程で浅く耕起して播種する。

○播種

- ・種子消毒：多湿条件で播種した大豆は、発芽の遅れや、土中で種子が腐り発芽苗立ちが劣りやすい。そのため、種子消毒(クルザーMAXX、キヒゲンR2フロアブル)等を徹底し、発芽率向上に努める。
- ・播種量：

播種時期 (月/日)	栽植本数 (㎡当り)	栽植様式(例) (条数)条間×株間×1株本数	播種量 (/10a)	窒素施肥量 (/10a)
播種適期 7/6～7/15	13本	(2条)75cm×20cm×2本	4kg	—
7/16～7/25	18本 20本	(2条)75cm×15cm×2本 (3条)50cm×20cm×2本	5～6kg	—

- ・播種深度

播種後2～3日以内に降雨が予想される場合→2cm程度の浅めに播種、鎮圧はしない。

播種後に晴天が続く場合や、土壤が乾燥気味の場合→4～5cm前後の深めに播種かつ鎮圧する。

○雑草防除

播種前)「ラウンドアップ」「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稻へ飛散する危険が大きいため必ず避ける。(場合によっては枯死まで至る)

播種直後) 土壤処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に、近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」「フルミオWGD」が効果的である。播種直後の散布でも隣接圃場の水稻ヘドリフト防止のため風速と風向きに注意し、風が強い日には散布しない。

※アサガオについては、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。

※すでにアサガオ類が多発している圃場では、トレファノサイド乳剤の全面土壤混和处理(播種前に200～300ml/10a散布→速やかに荒起→播種)で密度を減らすことができるため、土壤処理剤や大豆生育期除草剤、中耕・培土と組み合わせた防除を実施する。

令和5年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

佐城農業振興センター

